



学生が地元の産業について理解を深めた八戸地域学

八学大で「八戸地域学」

地元の産業に理解深める

八戸

八戸市の産学官が連携する本年度の高等教育機関共通講義「八戸地域学」が始まっている。25日は第2回の講義が八戸学院大で開かれ、学生が同市の産業や企業のカーボンニュートラル(CN)の取り組みなどに理解を深めた。

講。これまで同市三日町のはつちが会場だったが、多くの学生に聴講してもらうため、本年度は各校で実施する。1回目は18日、食糧、エネルギー、介護・医療の自給をテーマに、八戸高専で行われた。25日は八戸インテリジェントプラザの松坂洋司所長が講師を務め、市内の産業の歴史や特徴、立地する企業の強みなどを解説した。

Z世代は持続可能な開発目標(SDGs)について教育を受け、社会問題への意識が高いと指摘。将来、CNに対応していく人材として期待を寄せ、「文系理系は関係なく、今後、八戸を元気にしていくのは皆さんの力だ」と強調した。

最終回は12月4日、八戸工業大で多文化共生をテーマに開く。各講義の様子は後日、市の公式YouTubeで公開する予定。(出川しのぶ)